

Title	近代日本におけるイエール大学日本人留学生の研究
Sub Title	Research on Japanese students at Yale University in modern Japan
Author	小川原, 正道(Ogawara, Masamichi)
Publisher	福澤基金運営委員会
Publication year	2023
Jtitle	福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金事業報告集 (2022.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>明治初期から昭和戦前期にかけて、多くの日本人留学生を受け入れたアメリカのイエール大学において日本人留学生に関する資料を収集し、彼等の留学の実態、経緯、その意義について解明することを目的として、研究を実施した。イエールでの現地調査は2022年8月に行い、その後、その分析にあたったが、本研究では同志社および慶應義塾からイエールに留学した日本人を分析対象としているため、イエールでも彼等を中心に資料調査・分析を実施した。イエール大学には、日本人留学生に関する個人別ファイルが豊富に残されており、今回収集し得た限りでも、同志社関係では、小崎弘道、横井時雄、原田助、牧野虎次、浮田和民、慶應関係では、政尾藤吉、田中一貞、柴田一能、津田純一などに関して、主に卒業後のイエールとの関わりを中心とする資料を撮影した。また、イエール側で日本人留学生の受け入れ窓口となっていたジョージ・T・ラッド教授の個人文書にも、同志社関係や日本訪問関係の資料が豊富に残されていたため、これらについても、網羅的に収集した。同志社側で留学生の送り出しを担っていたドウェイト・W・ラーネットに関しても、ラッドに宛てた書簡を発見することができ、彼等の関係性について知ることができた。朝河貫一をはじめとした早稲田関係のイエール留学生についても、あわせて調査を行い、斎藤隆夫や関戸信次、杉田金之助などに関する現地資料を入手することを得た。9月以降、これらの史料の精読、分析を進めながら、これまで発表してきた同志社、慶應義塾からのイエール留学生についての論文を大幅に加筆・修正しており、これらを含めたアメリカ留学生に関する学術書が、2023年度に慶應義塾大学出版会より刊行される予定である。これにより、近代日本がアメリカから受けた思想的影響について、留学生を通じて、立体的に描くことが可能となろう。</p> <p>This research aims to gather materials relating Japanese students who had studied at Yale University from early Meiji era to Showa prewar period to unravel the actual condition, process, and results of their study. The investigation especially focusing on the students who had studied at Yale from Doshisha and Keio had been carried out in August 2022. Yale University Manuscripts and Archives owns a lot of files relating Japanese Students. At Yale, Professor George Trumbull Ladd had accepted them, and his papers include abundant materials on Doshisha and travel to Japan. I am revising my papers on Japanese students at Yale from Doshisha and Keio and my new book includes the chapter of them will be published in 2023 academic year. It will draw solid ideological influence from USA in modern Japan.</p>
Notes	申請種類：福澤基金研究補助
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12003001-20220003-0009

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	法学部	職名	教授	補助額	1,500 千円
	氏名	小川原 正道	氏名 (英語)	Masamichi Ogawara		
研究課題 (日本語)						
近代日本におけるイエール大学日本人留学生の研究						
研究課題 (英訳)						
Research on Japanese Students at Yale University in Modern Japan						
研究組織						
氏 名 Name		所属・学科・職名 Affiliation, department, and position				
小川原正道 (Masamichi Ogawara)		法学部・政治学科・教授				
姜兌琬 (Kang Tae Youn)		法学部・非常勤講師				
1. 研究成果実績の概要						
<p>明治初期から昭和戦前期にかけて、多くの日本人留学生を受け入れたアメリカのイエール大学において日本人留学生に関する資料を収集し、彼等の留学の実態、経緯、その意義について解明することを目的として、研究を実施した。イエールでの現地調査は2022年8月に行い、その後、その分析にあたったが、本研究では同志社および慶應義塾からイエールに留学した日本人を分析対象としているため、イエールでも彼等を中心に資料調査・分析を実施した。イエール大学には、日本人留学生に関する個人別ファイルが豊富に残されており、今回収集し得た限りでも、同志社関係では、小崎弘道、横井時雄、原田助、牧野虎次、浮田和民、慶應関係では、政尾藤吉、田中一貞、柴田一能、津田純一などに関して、主に卒業後のイエールとの関わりを中心とする資料を撮影した。また、イエール側で日本人留学生の受け入れ窓口となっていたジョージ・T・ラッド教授の個人文書にも、同志社関係や日本訪問関係の資料が豊富に残されていたため、これらについても、網羅的に収集した。同志社側で留学生の送り出しを担っていたドウェイト・W・ラーネッドに関して、ラッドに宛てた書簡を発見することができ、彼等の関係性について知ることができた。朝河貫一をはじめとした早稲田関係のイエール留学生についても、あわせて調査を行い、斎藤隆夫や関戸信次、杉田金之助などに関する現地資料を入手することを得た。9月以降、これらの史料の精読、分析を進めながら、これまで発表してきた同志社、慶應義塾からのイエール留学生についての論文を大幅に加筆・修正しており、これらを含めたアメリカ留学生に関する学術書が、2023年度に慶應義塾大学出版会より刊行される予定である。これにより、近代日本がアメリカから受けた思想的影響について、留学生を通じて、立体的に描くことが可能となる。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
<p>This research aims to gather materials relating Japanese students who had studied at Yale University from early Meiji era to Showa prewar period to unravel the actual condition, process, and results of their study. The investigation especially focusing on the students who had studied at Yale from Doshisha and Keio had been carried out in August 2022. Yale University Manuscripts and Archives owns a lot of files relating Japanese Students. At Yale, Professor George Trumbull Ladd had accepted them, and his papers include abundant materials on Doshisha and travel to Japan. I am revising my papers on Japanese students at Yale from Doshisha and Keio and my new book includes the chapter of them will be published in 2023 academic year. It will draw solid ideological influence from USA in modern Japan.</p>						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
小川原正道	東京専門学校とイエール大学—朝河貫一を中心に	『早稲田大学史記要』第54巻	2023年3月			